東京 IPO　特別コラム

２０２４年１２月５日　Vol.２３３

師走のＩＰＯ相場は今年も忙しい

先生が忙しく走り回る師走の季節が到来。米国のトランプ大統領再選で来年１月２０日から発足する新政権でイーロンマスク氏が起用されるなど米国のダイナミックで活気あふれる株式相場に負けるな、とばかり停滞気味だった日本株にもその余波が押し寄せ、日経平均が４万円に接近するなど師走相場への期待が高まりつつあります。とは言え相変わらず全体相場はファーストリテイリングなど一部銘柄に偏りが見られ多くの個別銘柄は不人気状態。昨日からスタートした１２月のＩＰＯも短期マネーが主体でかなり忙しい値動きが見られます。

１２月は４日のＴＭＨ（２８０Ａ）から２７日のビースタイルホールディングス（３０２Ａ）まで昨年１２月の１５社を上回る１７社がＩＰＯを予定。この結果、今年のＩＰＯ企業数は８７社となります。１１月までの状況ではその多くは初値がついて以降、調整を見せており、師走のＩＰＯもその事業内容の理解不足と短期投資家主体の市場参加という状況もあり、かなり忙しく変動が予想されます。

筆者は１１月２２日に上場した家系ラーメン「壱角家」や「山下本気うどん」などの飲食店を展開するガーデン（２７４Ａ）を訪問させて頂いたのに続き、今年４月に上場したアズパートナーズ（１６０Ａ）に昨日足を運びＩＲ担当者との面談をさせて頂きましたが、いずれもＩＰＯ時の公開価格を下回る株価変動が見られます。それぞれ現実の経済環境下に即したビジネスを展開しキャッシュフローを生みしっかり配当も実施している好業績企業ではありますが、市場での期待値が低いためなのか株価は上場後不人気の状況です。一方では１０月２９日に上場したＡＩプロダクト企業のＳａｐｅｅｔ（２６９Ａ）や１１月２９日上場の世界的ドローン企業であるＴｅｒｒａ　Ｄｒｏｎｅ（２７８Ａ）のようにまだ利益を生んでいなくても今後の成長期待から上場後人気化する銘柄もあったりします。

４日に上場した半導体製造装置部品販売・修理サービス、半導体製造装置の買取・売却支援会社のＴＭＨ（２８０Ａ）は公開価格１５００円を４２％上回る２１２８円で堅調に初値がつきましたが、その後は早くも１８００円割れを演じるなど波乱の展開。この後９日にはエネルギー関連サービスのインフォメティス（２８１Ａ・公開価格１０８０円）、１２日のユカリア（２８６Ａ・同１０６０円）、１３日のラクサス・テクノロジーズ（２８８Ａ・同２８１円）と続きます。

１８日にはＮＡＮＤ型フラッシュメモリをコアにした半導体メモリ事業を展開するキオクシアホールディングス（２８５Ａ）がプライム市場に上場予定。同社は旧東芝メモリで２０２４年３月期の売上高１兆７６６億円、営業赤字２５４０億円から今期２Ｑ決算で売上高４８０９億円、営業利益１６６３億円という実績を背景にしたＩＰＯ。公開価格は９日に決定されますが、仮条件の上限価格は１５２０円。フラッシュメモリは様々な生成ＡＩの登場で需要拡大が見込まれ、データセンターやスマホなどのデジタル機器向けに今後の市場拡大が予想される中での上場となります。一定のリスク要因は想定されるものの、師走のＩＰＯ相場で関心を高めるものと予想されます。

（東京ＩＰＯコラムニスト　松尾範久）